

令和7年度 第2回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会 【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年9月18日(木) 13時30分～16時05分

九州森林管理局 2階 大会議室

2 議題

- (1) 木材の需給動向等について
- (2) 木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について
- (3) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

現時点において供給調整の必要は無いものの、台風などの影響による民有林等を含めた原木出材量の増減動向を注視しつつ、計画的な供給を着実に果たせるよう努めるべきである。

【主な意見】

- 合板業界の状況について、今年(1月～7月)の生産量は152万m³、昨年同期が143万m³であったので若干の増となっている。出荷量は、生産量より若干少ないものの、今年が150万m³で昨年の141万m³と比べると昨年よりは増えている。

販売の底は脱したと思っているが、先の明るい情報もなく今の低調な状態が今後も続くのではないだろうかと思っている。

合板業界では生産調整が続いており、需要に見合った生産を行っているため、在庫量は17万4千m³と非常に低位な水準となっている。生産調整を行っているので、採算性の改善が急務な状態となっているところだ。

当社の状況も出荷量に見合った生産を行っており、通常の7割ぐらいの生産量となっている。九州の市況も回復の見通しがあまり立っていない状況。

原木の調達について、価格は弱含みとは言いながらも若干横ばいで、入荷量も不足感もなく生産に見合った量である。また我々が行く近隣の市場ではそう余剰しているようには見えないので、需給関係はちょうどいいのではないかと思う。よって国有林材の供給はこれまでどおり続けていただければと思っている。

- 製紙関係について、総合的にあまり良くないという状況が続いており、紙の品種によっては今年7月時点の出荷量が前年同月比で減少している用紙が多いが、稼ぎ頭で好調だった段ボールも、ここにきて国内出荷前年同月比0.3%増に留まっている。製紙業界で一番減っているのが新聞用紙で、国内出荷は50ヶ月連続のマイナス。

バイオマス用丸太について、近年トン当たり8,500円とか高いところは9,000円の相場となっている。私共の会社では需要量はほぼ集荷できているが、一部では集荷が苦戦し

ている発電所もあると聞いている。実は製紙用のチップは仮に価格が上がったとしても紙の値段を上げれば対応できるが、FITは売電価格が決まっているので、燃料代が上がれば上がるほど発電所の収益を圧迫することになる。原料の価格が上がるような状況が続いていくと、発電所の経営が非常に厳しくなってくる。現実そういった発電所も色々あると聞いている。

丸太の輸出について、昨年度に比べて非常に厳しい状況が続いている。特に中国国内の景気があまり良くないことに加え、トランプ関税の問題でフェンス用は非常に厳しい状況が続いているようである。

国有林材の供給調整について、ある程度バイオマス用・製紙用のC材は集荷できており、輸出用も相場があまり良くないので現地の要望に合わせて集荷することで今のところ過不足はないと思っているので、これまでどおり国有林材を供給していただけると非常にありがたいと思っている。

- 今年の梅雨期には大変雨が少なかったものの、お盆前の降雨により各地で災害があり、この夏は非常に酷暑が続いたが、原木については価格も出材量も安定した形で推移している。

製品については、年度末の建築基準法改正による駆け込み需要があり、その反動で回復に数ヶ月かかる予想であった。7月・8月にある程度戻ってくれるのかと楽しみにしていたが、前年対比では中々厳しい数字になっている。

水面下では輸入材からの代替需要も少しずつ出ているが、同じ新築戸数でも住宅価格の上昇による建物自体の小型化が進むことにより木材需要の減少が見られているのではないかとと思っている。

秋需と言われるものが9月・10月と期待して盆明けにどうなるのだろうか非常に注目されていたが、現状は動いてる製材工場と動かない工場があり仕事の偏りがある。製材工場に関わらず販売先も末端の工務店全体が少し今年は与信の心配ということを考えながら商売をやっているかなければならない状況になっている。たくさん売りたいところであるが、売れば売るほどリスクが高まってくるというジレンマが業界全体に生じているように感じる。

9月過ぎると公共事業や非住宅の需要が予想されるので期待しているところ。

原木については、価格も入荷量も現況は安定しており非常に良い環境であると思う。国有林材について、供給調整は必要ないと考えているので計画どおりの事業遂行をお願いしたい。

- 原木について、南九州では出材は全体的に減っており、原因は良い条件の山が無くなって奥地化していることと、コスト高が原因と言われている。

素材生産業者に話を聞いてみると、原木価格は横ばい推移しているが、人件費や機械等の値段が相当高くなって、これまでの原木価格で売っても中々利益が出しにくく、運搬コストが上がっていることで大変苦慮しているとのこと。

大手住宅会社はある程度多く受注しているような状況であるが、地場の工務店は仕事

を多く受注しているところが少なく、全体的には製材品の動きが少し悪いのかと思う。どこの製材工場も在庫を抱えているので単価も弱くなっており減産している状況で、それに加えて最低賃金の上昇等によるコスト高や人手不足により経営を圧迫しているような現状にあることから価格を上げていかないと、本当にこのまま経営を続けていくのが厳しい状況にある。しかし、価格を上げて、その先の建設会社なので経営も厳しい状況であることから価格転嫁は厳しい。

住宅着工戸数の減少はあるものの、住宅価格が相当上がっていることから床面積を狭くして住宅価格を抑えており、実際の住宅に使用する製材品の需要は1割から2割は減っているのではないと思う。

厳しい状況もあるが、今後は少し動き出すことも期待し、在庫を抱えているものの原木不足も考慮し、国有林材の供給は計画どおりに出材をお願いしたい。

- 原木の入荷状況について、1月から8月までの本社・大分・福岡においては、天候の影響はあるものの順調に推移している。一方、南九州においては直送の比率が多くなっていることや働き方改革による就業時間の減・労働力の不足・お盆の連休等の影響により、目標を大きく下回る取扱量となった。それから酷暑の影響により素材生産の作業が進まないとも聞いているので、それも出材量減の要因の一つなのかと感じる。

市況動向について、弊社のヒノキはシステム販売が主力のため、数カ月単位で値段は安定しており、一方、市売りにおいては8月末の市売りから9月初めの市売りの数日間で1,000円から2,000円ほど値下がりになった。スギは、平均価格14,000円台後半で推移している状況になっている。

バイオマス材について、九州北部ではバイオマス材のひっ迫感が最近までなかったが、九州全域また九州以外からもバイオマス材の集荷にエリアを広げている業者がかなり増えてきているので、値段が九州北部と南部では2,000円ぐらいから3,000円ぐらいの格差がある。おそらく今後は値段を上げざるを得ないのかと感じている。

輸出について、弊社は小径木の8cm上を中国向けに商社を通して輸出しているが、8月ぐらいから関税の問題で止まるかもしれないとのことで、止まった場合はバイオマス用に回すことで段取りはしていた。しかし、価格、数量ともに現状維持をしていただき、9月も止まることなく輸出に向け準備を進めているところ。

国有林材の供給調整については、九州は広いので地域によっては災害の影響で丸太の不足感にあるところが見受けられるので、今後も計画どおりに安定した供給をしていただきたい。

- スギについては大手工場をはじめ200円から300円ほどの値下げ要求が強くなったが、ヒノキについては今のところ安定しているようである。

原木出材量の不足感について、国有林であっても全国の2割程度であるため、やはり民有林から出材が増えないといけませんが、立派な山に育っているものの、実態は限界集落で人がおらず、山主が施設に入っていて契約も出来ないという大変な状況もある。

地元には詳しくない事業者がなかなか買い付けられない状況に加え、原油や機械、トラ

ックなどのコストも上昇し、伐採現場も急傾斜地が多く、より奥山になっていることで運送距離も遠くなるなどの複合的な要因が出材のハードルを上げている状況にある。

そのほか、地元大手の製材工場によるとこれまでは地元県内で賄ってきたが、県外からの入荷が増えてきていると聞く。また、木材の貿易企業が山を直接買いに来ている模様。バイオマス向けも値段が上っているところで合わなくなってきたことで、山から直送するしかないとなっている。

アメリカは金利を下げるというニュースも流れたが、関税対策でカナダからの仕入れが多く、余分に在庫量もあるようで、アメリカ自体も景気がよくなるとかいう状況の雰囲気はないと聞くところ。

製材の動きについては、熊本方面で価格が安定している関係で、宮崎県南の素材業者は熊本のほうに材を運び、製品を買う業者は熊本方面から都城に買いに来るというバランスが崩れた現象が起きていると聞く。

これらを踏まえ、供給調整については現状のまま供給調整を変更する必要はないと思われる。

- 取扱量は8月上旬の豪雨及び中旬の台風12号による夏の豪雨被害による、林道・作業道被害のため、木材搬出にも支障が出たことから、前年同月比4ポイントマイナスの減少を見せた。

平均単価が前年同月比で700円下げとなった状況を踏まえ、取扱高は前年同月比9ポイントマイナス。

市場の動向については、スギ材は軒並み前回市からは減少傾向にあり、スギA材は12,600円から14,000円、B材は13,500円から14,600円というところ。

市場全体としては、スギ4m、40cm上で品薄感のため若干の買い気あり。ヒノキは30cm上の買い気あり、用材以外も若干の価格上昇があるとの状況である。

輸出の状況では、中国における港で多くを占める「8cm～16cm」は、中国政府政策の事情により、今後は輸入をかなり控える情報があるなど不透明な情勢であるが、志布志港では、11,000円前後の単価での取引となっている模様。

国有林材の供給調整については、相場及び関税動向も含めた需給動向を十分に踏まえ、市況の安定化のために計画的な供給をお願いしたい。

- プレカット関係では、8月は盆休みも長く一部地域において水害等もあったことから非常に苦戦するかと思ったが、前倒し生産をかけながら何とか生産目標を下回らないような生産となった模様。業界としては概ね80%から105%ぐらいの幅で動いているようである。

このように生産が予定通りに行かない要因のひとつとして、住宅価格の高騰で住宅そのものが売れていないということ、また、4号特例廃止によって確認申請の許可がものすごく遅れており、確認審査が混乱したこともあったと考えられる。

特に、構造計算での申請においては、一軒一軒仕様が違うこともあり、大手ハウスメーカーは会社独自の仕様があり慣れていけば円滑に確認申請の審査が通っていくと思

うが、地場の工務店は中々慣れていないこともあり、確認申請機関からの確認の質問が増え時間を要する場面があり苦慮しているようなところもある。

これらを踏まえ、これからの時期である10月から12月というのはプレカット工場では繁忙期といわれる時期であるものの、物件もなかなか満杯にならないという状況が見られ、年末まで盛り上がらないのではとの見込みと思われる。

人件費の高騰においては、日本においてもこの三年間で10%ぐらい上がっている状況があり、この三年間で売上が増えたかと言えば、むしろ下がり続けており利益もどんどん減っている状況というところ。

人件費の値上げは防衛的賃上げで致し方ない。工場によっては昨年の夏、冬、今年の夏と3回連続でボーナスが無かったことで、ものすごく人が辞めていったという話も聞く。

現状における見通しとしては、供給調整はこれまでどおりでお願いする。